

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500099		
法人名	有限会社 ケアつかさ		
事業所名	グループホームコスモやよい		
所在地	大分県佐伯市弥生大字山梨子828番地		
自己評価作成日	令和6年6月23日	評価結果市町村受理日	令和6年9月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4490500099-00&PrefCd=44&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古府国巻番館 1F		
訪問調査日	令和6年7月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は山や田に囲まれたために、自然豊かな四季の風景を感じる事ができます。入居者様は一人ひとり自分のリズムでゆっくり過ごされて、傍らで職員が寄り添っています。現在、入居者様の高齢化や重度化等さまざまな課題が生じています。入居者様が心身共に健康であるため、ご家族が安心を得るために、私達に何ができるか話し合い考えながら、事業所としてできる限りの事をするべく日々の介護に取り組んでいます。同じ時間を過ごす中で、喜怒哀楽を共にしながら入居者様が穏やかに暮らしていけるような関わりを持ち、また地域住民の一員として、地域活動や人とのふれあいを大切にしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間部の集落に立地し、自然に囲まれた静かで過ごしやすい環境にある施設です。コロナ禍において、地域や家族との交流が制限される中、利用者にとって楽しめる食事に力を入れ、献立は出来るだけ利用者の希望を聞き、手作りで作られています。季節に応じたメニューで利用者に喜んで頂くことをモットーにされています。管理者・職員全員が研修を積極的に受け、一人ひとりが利用者や家族に寄り添い、支援・ケアに取り組まれ、希望に応じ看取り介護に対応でき、最期まで住み慣れた地域で生活できる支援体制に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関と事務所に掲示しており、毎朝 朝礼時に職員間で復唱し、実践に努めています。	理念に基づいた支援の共有のため、朝礼時や引き継ぎの時などに理念の方向性を再認識されています。職員採用時においても、理念について説明・理解をもとめています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出た時や、駐車場で会えば利用者様と一緒に挨拶をしています。	コロナ禍で疎遠となっていた地域との関わりを持つように、散歩・外出等を活用しながら、「お久しぶり」「元気ですか」等、挨拶を交わすなど、重度化防止の対応に取り組まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に見えるご家族や、地域の方から相談を受けたりします。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の活動報告や入居者様の様子を話して参加者と意見交換をしています。	開所以来の8名のメンバーで、年6回開催されています。自己・外部評価、事業所や利用者の状態・状況を報告すると共に、委員から地域の情報など聞くことができ、常に双方向で対応がなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険係に制度について尋ねたり、運営推進会議の中で包括支援センターの職員の方に事業所の取り組みを伝えたり、介護保険の情報を聴いたりしています。	コロナ禍で利用者の状態の変化や法律・制度の改正など、理解出来ない時は、包括支援センターや介護保険係等と連絡を取り合い、相談・指導を受けながら対応がなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1度身体拘束対策委員会を開き、拘束委員を中心に身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	毎月開催の身体拘束対策委員会で、利用者に対して拘束にならない支援等について、職員間で共有・話し合いがなされ、利用者が安心して過ごせる環境づくりに取り組みがなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束対策委員会の中で虐待防止について話し合い、職員に周知しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者様が居るので保佐人の方に情報を聴いたり、施設内研修の課題として取り上げ学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご家族の方に契約について説明し、理解して頂いて署名押印をお願いしています。法改正時には文章で説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。利用者様に関わる中で要望を聴いたり、ご家族の面会時に意見や要望を聞いています。	意見箱に意見・要望はありませんが、面会等を活用し出来るだけ、家族の意見が頂けるよう取り組みがなされ、出された意見は職員会議で共有しながら対応がなされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や各棟のミーティングで運営に関する意見や要望を聞き、反映出来る様にしています。	重度化に伴い、支援方法など気付きやアイディアなど利用者が心地良さを感じることを、職員会議やミーティングで報告、職員間で共有しケアの統一が図られるなど対応されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は事業所に立ち寄り職員の勤務状況を把握しています。各自が向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月事業所内で施設研修を行います。外部の研修の案内を掲示して希望者には勤務を調整しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修で同業者との交流があり、情報を交換したりしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時に本人と話をして困り事や要望を傾聴しています。安心感を得られるように言葉かけや接し方に配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時にご家族と話をして困り事や要望を傾聴しています。信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の意向を聴いて必要な支援を見極め、事業所として出来る限りの支援を行うよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と同じ時間を過ごす中で喜怒哀楽を共有しています。入居者様の気持ちを考えながら接するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には玄関やテラス、事務所で過ごせるよう時間を作っています。生活の様子を伝えたり、一緒に話を聴いたりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の生い立ちや出身地の話を聴いたりしています。ドライブで馴染みの風景や景色を見ながら話を弾ませる事もあります。	家族・知人等と話したい希望があれば、対応されており、自宅に帰りたいなど帰宅願望があれば、自宅付近までドライブに連れて行かれるなど、継続的な支援に取り組みがなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や行動、認知症状を把握して入居者様同士が仲良く支えあい、また衝突しないような場面作りに配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族に会った際には、挨拶を交えて話をしたりします。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い希望を聴くようにしています。困難な場合は家族に聴き本人本位に検討しています。	外出希望者には、ドライブ等に誘いながら、ストレスが溜らないよう取り組まれ、利用者の食事の時などを利用し、願望・したいことなどを聞き家族に意見を聞くなど、本人本位の対応がなされています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から生活歴やこれまでの経過等を聴いています。入居後も話をしていく中で少しずつ把握するようにしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握するようにしています。できる事やできない事は日々違うので場面に応じた対応に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を聴いて介護計画書を作り職員間で共有しています。	本人や関係者から話を聞いたり、ケガや重症化で支援の中、介護計画で対応が出来ない時など、見直しに取り組むなど、本人本位のケアとなる介護計画を策定しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はタブレットを使っており、利用者様の情報を共有しています。ケア会議で議論された事は、介護計画の見直しに活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望や要望に応じて事務所として柔軟な支援をしています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握して入居者様が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるようにしていきたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を聴いてかかりつけ医を決めています。かかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療が受けられるように努めています。	利用者それぞれの主治医となっています。主治医や専門医と連携をとりながら適切な医療が受けられるよう家族の協力を得て支援されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していません。受診の際病院の看護時に状態を伝えて相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院や退院時には病院の連携室と連絡を取り合います。入院中の様子を尋ねたりしながら状態を把握し、早期に退院できるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、ご家族の意向や希望を聴いて話し合い、事業所としてできる限りの対応をしています。	終末期のあり方については、利用者の様子に合わせ家族や主治医と話し合いを重ねながら、事業所として出来る事の支援に取り組まれています。	入所時に施設として出来る事の説明をされることを希望します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には全ての職員が対応できるように訓練を重ねています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施しています。地区の方には防災時のお願いをしています。災害時に対応できるよう全職員で身につけて定期的に避難訓練を実施しています。	定期的に防災訓練を重ね、利用者の状況や環境に対応できるよう様々に工夫しながら体制を整えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の性格を把握し、プライバシーを守りながらその方に合った声掛けや対応をしています。	職員全員で定期的に研修を受け、利用者の尊厳や誇りを大切にするよう共通認識を大切にしながら利用者の気持ちに寄り添った処遇に取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で意見を聴き自分で決めれるような場面の配慮を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のリズムを尊重して、気持ちよく落ち着いて暮らせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服を選んでもらったり、一緒に選んだりしています。外出する際には着替えて身だしなみに気をつけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで一緒に収穫した野菜を使ったり旬の食材を使用し、バランスの取れた家庭的な食事を作っています。食事前は発生練習をしいいただきます」の挨拶をして食べています。	施設での食事提供に、取り組まれています。旬の食材を大切に、地域の方から野菜を頂くことがあります。その時々季節の食材・利用者の好みを、柔軟に食事に反映させ食事を楽しんで頂けるよう工夫されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事量、1日の水分量を記録して体調と照らし合わせたりします。咀嚼や嚥下が不十分な入居者様にはミキサー食を提供したり、食べやすい大きさに切るなどしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行います。食物や汚れが残らないよう入居者様に応じた介助をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タブレットで排泄パターンを確認してトイレ誘導の声掛けやオムツチェックを行います。	職員全員で、利用者の排泄パターンを把握できる体制が整えられており、利用者に対し最適な支援に取り組まれる体制を整えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時にアクエリアスを飲んでもらったり、ラジオ体操にて体を動かしています。十分な水分摂取を心がけ必要時には薬にて排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調を考慮して入浴します。一人ひとりの希望やタイミング良く声掛けをして気持ちよく安全に入浴できるように努めています。寝たきりの利用者様には、シャワーストレッチャーを使用しています。	利用者の状態に合わせて、入浴を楽しんで頂けるよう施設として体制を整えて支援されています。利用者の、その日の気分や体調を最優先に安心して気持ちよく過ごして頂けるよう、工夫しながら取り組まれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎食後ゆっくりと過ごしてもらい、居室で昼寝をする利用者様もいます。寝具はいつも清潔にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後の薬は袋に書いている名前を必ず声を出して呼んで確認し服用してもらいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞折りや洗濯物をたたんでもらったり、畑の草と一緒に取ったり、ゲームや歌と一緒に歌ったりしてレクリエーションを楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1度ドライブを計画しています。お天気の良い日は、近所や敷地内を散歩する機会をつくるようにしています。	利用者のその日の気分や体調に合わせて、日常的な外出支援に取り組まれています。ドライブも充実され、季節を感じてもらったり気分を変えて戸外の空気を感じ楽しんで頂けるよう、外出支援に取り組まれています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば一緒に買い物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を取り次いで話をしてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感や整理整頓に努めています。共同の場所は転倒防止や危険を避けるため必要な物は置かないようにしています。四季を感じられるように季節にあった塗り絵や貼り絵をしてホールに掲示しています。	利用者が最適な環境で過ごせるよう常に把握しながら、安全・安心して気持ちよく過ごして頂けるよう工夫され支援に取り組まれています。温室管理・感染予防対策も大切にされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置は定位置。ソファーでの位置もたいてい決まっております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドと筆筒があり、筆筒や出窓には思い出の品を置いています。筆筒の中には季節に合わせて衣替えをしています。	利用者が、馴染みの物の持ち込みや居心地よく過ごせるよう最適な環境を整えています。必要な時は家族の協力を得ながら利用者に寄り添った支援を心掛けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況やその時の状態に合わせた声かけをし、自分でできる事はして頂き様子を見守っています。		